

平成29年度 第2回北九州市人と動物の共生社会推進懇話会

議事録概要

1 開催日時：平成29年11月29日（水）13：30～15：30

2 開催場所：総合保健福祉センター6階 視聴覚室

3 出席者：

(1) 学識経験者：石川会員、横山会員、馬場会員

(2) 獣医師会：西間会員

(3) 動物愛護団体：西原会員、中山会員

(4) 市民：西井会員、原田会員、松永会員

(5) 助言者：宮崎玲子氏（動物愛護団体）

(6) 行政：[事務局]

保健福祉局保健衛生課

[オブザーバー]

保健福祉局動物愛護センター

4 議題

(1) 地域における猫との適切な関わり方について

(2) 飼主の順守事項、無責任な餌やり行為について

5 議事（概要）

(1) 開会

事務局 開会の挨拶

(2) 出席者紹介

(3) 助言者出席について

中山会員の要請により、地域猫活動に詳しい宮崎玲子氏が助言者として出席した。

(4) 会員による意見交換等

座長（石川）

本日の議題は、「地域における猫との適切な関わり方」と「飼主の遵守事項、無責任な餌やり行為について」の2点となる。議事のスムーズな進行にご協力いただきたい。

それでは、まず事務局から説明をお願いする。

(1) 地域における猫との適切な関わり方について

事務局 <資料を用いて説明>

座長

市の猫に関する取り組みや課題について説明があった。この説明を含め、地域における猫との適切な関わり方について質問や意見はないか。

～動物愛護団体の状況について～

動物愛護団体（西原）

動物愛護センターへ引取りの相談後、協議会へ相談のあった件数は、平成28年度は猫が21件、25頭について相談が入っている。1年間に協議会で避妊去勢手術をした犬が92頭、猫が72頭。費用については募金で賄っているものもあるが、多くを自費で払って活動している。動物愛護推進員は市からお金がでていないと勘違いされているが、一切もらっていない。動物が大好きなので、自分達で足りないものは自費でやっているところ。しかしそれも限界があるので、今後について行政に考えていただきたいし、助けていただきたい部分もある。避妊手術をした数の内、ほとんどが多頭飼育崩壊である。その犬猫達が一度に愛護センターに収容されると、処分される可能性があるため、それを食い止めるために頑張っている。それも限界が近づいている状況で協議会は動いている。

座長

協議会の状況を説明いただいたが、自費での活動が限界にきているということだが、市のほうで何か調整を行っているか。

動物愛護センター

動物愛護推進協議会は、市が2年間動物愛護行政に協力いただきたいということで委嘱された動物愛護推進員の活動について協議をする団体になる。推進員の方々が実際に犬猫の保護や譲渡などをしていただいております、基本的にボランティアとなっている。ボランティア保険についてはセンターで加入しているが、その他の費用については一切払っていない。動物愛護推進員には自費で活動いただいておりますととてもありがたく思っている。

ただ、現在動物愛護センターの収容数も過去5年で最高の数になっている。センターもこれ以上増えて過密状態になると、収容能力がなくなるのと同時に感染症が発生して結局致死処分する状況もでてくる。せっかく人に慣れて譲渡対象になった犬猫も感染すると致死処分せざるを得なくなるため、できるだけセンターに入る前に対処したいと思っている。センターに入った犬猫の譲渡は市も単独でやっているが、半分はボランティアの協力により譲渡されている。動物愛護推進協議会の活動のみでは限界がきていると思うので、今後動物愛護センターから犬猫を譲渡してくれるボランティアを募集し、ミルクボランティアの公募は昨年と同様行いたい。いろいろ協力いただける方を増やし、その方たちを支援しながらやっていきたい。

～猫に関する苦情、相談について～

学識経験者（横山）

苦情件数のその他の理由は具体的に何があるか。

動物愛護センター

件数は少ないが、いろんなものがある。猫の爪とぎ被害や餌やりがいる、子猫がカラスに襲われている、木から下りられない猫がいる、車のエンジンルームに猫がいるなど。現場には行くが、解決策がないことが多い。

動物愛護団体（西原）

推進員への相談で、生活保護を受けている方が自宅とは別に家を借りて、窓を開けっ放しで猫を20匹程度飼育している人がいて、近隣の人は糞尿に迷惑しているとの相談。本人は動物愛護ボランティアでやっていて、避妊去勢をしているから関係ないと言われたそう。地域猫は外で生活させる事が前提だが、外で生活させるにはトイレマナー等が必要だと思う。そうでないと、猫たちが嫌いな人から尚更嫌われ、猫が好きな人も嫌いになる可能性もある。生活保護者の方が隠れて動物を飼育するという事について、行政が管理体制をとって対策をとってもらえないか。生活保護が打ち切られた場合、猫がどうなるか。人間と猫の両方の命がかかってくるが、ボランティアもどうすればいいかわからない部分がある。行政もその辺の対策をしっかり持って、連携して2つの命を助ける形を作っていたきたいとの思いがある。

獣医師会（西間）

苦情件数については、同じ案件について何回も苦情を言う方もいるので、実数はもう少し少ないのではないかと思われる。

～地域猫について～

学識経験者（横山）

地域猫は、町内会単位で町内会長名で申請、対象猫の写真を添付することになっているが、これ以外に申請する条件はあるか。地域猫やミルクボランティアについて、まずは知ってもらうことが一番だと思うが、PRはどのようにおこなっているか。PRで悩んでいる事があれば教えてほしい。

動物愛護センター

避妊手術後にその猫を管理しないといけないので、時間場所を決めて餌をやる方、片付ける方、トイレを片付ける方など、主に活動される方3名を選出することが必要となっているので、これが大きい。

PRについては、地域猫事業を始めた平成24年度は初めての試みであったため、うまくいかない可能性もあり、現在まで積極的に広報はしてこなかった。ただ、猫の問題が依然として多いことや、動物愛護推進員からもオス猫の去勢の希望があることから、他自治体で去勢手術をしているところもあるので、オス猫の去勢手術も視野に入れて、それも含めて地域猫をPRしていきたいと今後は考えている。ミルクボランティアについては、平成27年度から一般に公募を始めている。12月から3月にかけて市政日より等で募集している。それは市のHPに掲載しているし、ミルクボランティアの公募のチラシを各区役所や獣医師会の動物病院などいろんなところに配布をしている。

座長

地域猫の認定の仕方や PR について説明があったが、地域猫に現場で携わっている宮崎さんから何か意見はないか。

動物愛護団体（宮崎）

地域猫に認定された地域へ直接お手伝いはしていないが、地域猫の第1回目の説明会に参加した時、町内の人が多く集まっていたので、感心して期待はしていたが、実際はあまり成果がでていない。関わる推進員も仕事を持っているので、長い時間関わることはできない。地域で何名か管理する人を確保するのはとても難しいと思う。自分も何ヶ所か地域猫の説明をしたが、よそから自転車に乗って餌をやりに来て、地域の方は誰も餌をやっていない。そうすると、地域で管理しろと言われてもできない。夜に来て餌をやる人を捕まえて指摘しても、知らないと言われる。そうすると、避妊手術をしたあと管理してくれといってもできないため、しっかりとした地域猫の立ち上げができず、単なる野良猫で終わってしまう。地域猫の難しさを痛感している。

動物愛護団体（西原）

現在ミルクボランティアで3腹のお世話をしているが、手一杯の状態である。今後ミルクボランティアを増やしてくれるとの話だが、子猫が産まれるということは親猫がいるわけで、子猫を産ませる前の蛇口閉めとして、親猫に対して力をいれて避妊去勢をしていかないと、いつまでたっても子猫が生まれてくる状態である。自分達や他のボランティアもTNRを何年も続けている状況を見ると、頭数が減ってきているわけではないと思う。そうであれば、どこかで生まれてどこかで育っているという堂々巡りの状態だと思う。蛇口閉めと啓発の両方をやらないと頭数を減らすのは難しいと思う。

動物愛護団体（宮崎）

地域猫を立ち上げる事はとてもいいことと思うが、認定を受けるために日にちがかかるため、その間に子猫が産まれてしまう。譲渡会をしていると、自分で餌をやっているけど捕まえられない、どうしたらいいかという相談をうけるので、5台、6台の捕獲器を使って捕獲している。地域猫にしたらどうですかと説明しても、そこまではできません、時間がかかる、いろんな人を説得するのに、町内で餌やりをやっているため、皆からにらまれている方が多いので、地域の方に協力してくださいと言えない。だからこそこそ餌をやりながら、こそこそ避妊手術をして元に戻すということをやっている。今年は特に子猫の保護が多かった。そういう方は自腹で避妊手術をしている。そういう方の負担を少しでも軽減できればと思う。

座長

行政も地域猫を推進してほしいと思っているが、不十分なまま認定してしまうとそれはそれで問題となる。現場と行政の間にジレンマがあると思うが、認定に対して何かいい方法はないだろうか。

動物愛護センター

税金を使ってやっている以上、猫を好きな人嫌いな人両方が納得する事業じゃないといけな。そこはきちんと確認しないといけない。ただ、申請をいただいたら、なるべく早く認定しないといけない。地域によっては、無料で避妊手術をする事業だと勘違いされているところもあるので、よく精査をしないと税金の無駄遣いになる。実際に機能しているかどうか確認した上で認定しないと、地域猫事業そのものが空中分解してしまう。なるべ

く早くしたいと思っているが、そういう事情もある。

学識経験者（横山）

認定された地域で縄張りが変わり、新しく入ってきた猫については、後から申請すれば避妊手術を行っているのか。大学でも避妊手術をした後に新たに猫が入ってきているので、同じような問題が生じているのではないかと思う。

また、現在地域猫認定されている13地域で情報交換を行う連絡協議会などはあるのか。

動物愛護センター

地域猫の前提として、今いる猫について管理するもので、新たに入ってきた猫には餌をやらずに定着させないようにする。それで雌猫を確実に避妊していけば数は減る。野良猫の寿命が3～5年といわれているので、その数年の間には数が減って、苦情も減るというのが前提になっているので、新たに来たものに餌をやらないし手術も行っていない。

今のところ連絡協議会はない。地域猫事業を始めて5年経つが、ほんとに地域猫をやった効果があったのか評価することを先延ばしにしてきた。今後評価をしたうえで、何らかの問題があれば、連絡協議会を立ち上げてやっていかないといけないと思っている。

市民（松永）

地域猫と野良猫の違いは何か？

動物愛護団体（宮崎）

地域猫を立ち上げた黒澤先生という方がガイドラインを作成するためにそのような名称を考えた。一般の野良猫と違うのは、避妊去勢したあとにその猫が地域で認められて、見守られている猫が地域猫である。

座長

飼い主のいない猫を地域全体でその野良猫を飼うという取組み。猫は避妊手術をしたうえで管理していく。それ以上不幸な猫を増やさない制度である。新たに入ってきた猫については餌をやらずに定着させない。

動物愛護団体（宮崎）

そうすると別の地域で繁殖するというところで、同じことだと思う。いくら地域猫を現在の数だけ認定しても、他の猫達が流れてくる。

座長

増える要因としては、先ほど西原会員が言われた蛇口閉めができていないところから入ってくるのだろうか。

動物愛護団体（宮崎）

そうとは限らない。自分も2箇所ほど半野良状態で飼っているところを把握しているが、町内に行くと地域住民は困っている。餌やりしている人に注意するが、半野良なので自分の猫ではないと言われる。しかし、丸々と猫は太っていて、それを見て猫が好きな人が地域外から餌をやりにくる。半野良状態の猫が非常に多い。猫の避妊もほぼしていない。

動物愛護団体（西原）

現状、保護している猫には雑種の猫じゃない子猫もいるので、飼い主が避妊去勢をせずに家と外を自由に行き来させている事例が、かなりあると思われる。最近は猫ブームで猫を飼う人が増えてきていると思うが、猫の室内飼いや避妊去勢の徹底などが必要だと思う。

～多頭飼育崩壊について～

獣医師会（西間）

少子高齢化や孤独死などで、飼育崩壊、多頭飼育した人が亡くなったため、餓死寸前の動物が大量に発生する事例が各地で発生している。それに対する対策を考えないと、その時に何十頭と病気に近い状態の動物がそこから出てきて、それをどこかが受入れなければならない。致死処分ゼロを目指すにあたり、1件50頭などの動物が連れてこられるので、そういうことが起こらないように何らかの手を打つ必要があると思う。

座長

そういった情報を行政は把握しているのか、地元の人だけが知っているものなのか。

動物愛護センター

行政では、何か問題が生じないと分からない。ボランティアの方が深く入るので、より気付きやすい。ボランティアから連絡があり、指導が必要と判断すれば立入ることになる。他都市では条例で多頭飼育の届出制度を規定しているところもあり、それで把握する事はできるが、届出しない人もいるので、そのへんはどうなのかと思うところもある。

座長

他都市の状況について話がでたが、次の議題について他都市の状況も含めた法律的な話を事務局から聞いた上で、飼い主の遵守事項や無責任な餌やり行為について意見をいただきたい。

（２）飼い主の遵守事項、無責任な餌やり行為について

事務局

<資料を用いて説明>

座長

飼い主の遵守事項等について他都市の状況も含めた法律的話しがあったが、飼い主の遵守事項、無責任な餌やり行為について意見があれば願います。

～多頭飼育崩壊について～

動物愛護団体（西原）

飼い主が遵守事項を守れていないので、多頭飼育崩壊等がおきる状況だと思う。高齢者や独り身の方で内にこもる方は、臭いなど近隣からの苦情によって多頭飼育が分かる事が多いと思う。事前に把握するために、アニマルケースワーカーのNPOを設立し、ケースワーカーの方と昨年度は門司区だけで活動しているが、70件以上の相談がきた。相談を受けて、飼い主に動物を病院に連れていかせたり、避妊去勢をさせたりしている。飼い主が急な入院になった時は、動物の緊急の保護先を作らなければいけないので、ステッカーを作って連絡先を配布している。北九州市は高齢化が進んでいるので相談が多く、高齢者に情報を教えてあげないといけない。高齢者はネットが使えないので、口頭や市政だよりや市の広報で教えるしか方法がない。そういうことを行政もやっていけたらいいのではないか。

座長

70件以上の相談は本人からあったのか。

動物愛護団体（西原）

ケースワーカーやホームヘルパーから来ている。結局口コミで広がり、市内全域から相談が来るようになっている。どこに相談すればいいかわからなかったという意見が多い。ヘルパーは人間しか援助できないので、猫がたくさん飼われていても、その点について意見することができない。

市民（原田）

自分は民生委員をしており、一人暮らしや高齢の方の自宅に伺うので、相談先を記載したチラシ等があれば民生委員が協力することはできると思う。

～他都市の状況を踏まえた本市の取組みについて～

座長

京都市や神戸市では踏み込んだ政策を取られているが、北九州市ではどこまで展開できるだろうか。何か意見はあるか。

学識経験者（横山）

京都市ではマイクロチップの装着が規定されているが、北九州市では名札の装着が努力義務になっているが、なかなか守られていない。マイクロチップを付けた方がいいのではないと思うが、獣医師からみてマイクロチップの猫に対する負担とか費用面で飼い主に負担はあるか。

獣医師会（西間）

マイクロチップ自体は小型化して多くの情報が入るので結構だが、野良猫に埋め込むには鎮静か麻酔をかけないとできない。埋め込んだとしてもリーダーで読み取るのは、20cm程度近づけないといけないので、野良猫のマイクロチップを読み取ることはかなり難しいと思う。費用は登録料が1,000円だが、麻酔や技術料を入れると1万はかかる。費用的にも野良猫に打つのは難しい。また、地域猫をする時にマイクロチップを入れることを検討したが、マイクロチップは飼育者を登録することが前提で、野良猫にマイクロチップをいれても飼育者がいないので、野良かどうかの判断ができるだけで、効力を活かせない。

座長

他都市の事例を踏まえて、現場で活動するにあたり、北九州市でやるならこのような取組みが効果的ではないかということはあるか。

動物愛護団体（宮崎）

他都市の事例を見て、いいなと思う部分はすごくあるが、なかなか難しい問題だと思う。ただ、先ほど言ったように、餌をやっていてどうにか自分で捕まえて避妊をしたいという人が増えている。そういう方が地域猫を立ち上げるまでには行かなくても、個人的に捕まえて自分で費用を出して手術をしたい人のお手伝いを市のほうでしていただければ、例えば動物愛護センターに相談して捕獲器の使い方を教えていただくとかができれば、コツコツだが片付いていくのではないかな。自分達も一生懸命手伝っているが、なかなか追いつかない。動物愛護センターで協力していただけたらすごくうれしい。

市民（西井）

動物愛護の取組みについては、賛成意見も反対意見もありなかなか解決に向けては難

しいと思う。180度方針を転換することはできないが、他都市の事例を参考にいろんな方の意見を聞いて市の方向性を決めたらいいと思う。

動物愛護団体（中山）

先ほど宮崎が言ったように、地域猫ではなくても、見かねて避妊去勢手術を自費でしている方の相談がたまにあるが、地域猫では町内会長などの承認や手続きを踏まないといけないし、高齢者はやりたがらない。それが難しいので、ある程度は自分で避妊手術をしても、すべて自費になるので頭数が限られる。そこで、個人でやってくれる方に少しでも助成を出すということにすると、頭数的に避妊去勢する数が増える。それだと致死処分が減るのではないかと思う。

座長

個人、NPOやボランティア団体が野良猫の避妊手術をする場合に、行政が助成する場合の障壁はあるのか。

学識経験者（横山）

そもそも行政の手続きとして個人に助成をすること自体は可能なのか。

動物愛護センター

既に獣医師会の雌犬雌猫の避妊手術事業に230万円の補助金を出している。対象は飼い犬、飼い猫とはなっていないので、そこには野良猫を連れてくる方もいると思う。230万は結構な金額で、1頭1万円を助成しており、避妊手術は2万程度かかるので半分位は助成している。現在230万円だが、市が獣医師会に補助金を出し始めたのは平成16年からで、当初は80万円の補助金だった。翌年に120万になり、平成26年に130万、平成27年から5年間で更に100万上乗せして230万になっている。既に230万円出している上に更に補助金を上乗せするのは、市内部での理解が得られない状況。その代わりに地域猫事業もやっているところで、地域猫でも去勢手術もやってどんどんPRしていきたいと考えているし、税金を使うという事業が壊れない程度に、もう少し高齢の方にもできるようにお手伝いをする仕組みをつくりたい。

個人に対する助成については、それが必要だという状況、判断になれば、市の内部で財政と相談してお金が付けば可能だと思う。

獣医師会（西間）

随分前から捨て犬、捨て猫防止キャンペーンで避妊手術をやっていた実績を市に認めてもらって補助金をもらっている。市内の獣医師会の動物病院で猫の避妊手術が年間4千頭程度実施されていて、その一割程度でもぜんぜん繁殖数は減っていないが、他に繁殖制限できる手立てがないため続けている。私たちも市の借金が増えている中で、補助金を更に要求することはできない。

私たちの目的は、飼い猫より野良猫を減らすために繁殖制限したいわけで、ボランティアの方が応募してきても当選すれば助成している。また、動物愛護センターでの譲渡会で雌の子猫をもらってくれた方には、無条件で避妊手術の当選券を付けるなど枠を設けて、1頭でも野良猫の不幸な出生を抑制しようと、少ない金額の中で知恵を絞ってやっている。

また、当選した人の8割は手術をしているが、残り2割は手術しない方がいる。そのため既に避妊手術をした方で後日抽選をして、残りの2割分をあてている。

動物愛護団体（宮崎）

避妊手術のために何度もお腹を開けられた猫を知っているのだから、それらを防ぐため、避

妊手術をした野良猫に耳カットを徹底することは、獣医師会ではできないか。

獣医師会（西間）

耳カットは獣医師の中でも賛否両論ある。その猫が完全に野良猫か判断できないし、かなり大きく耳カットしないと遠くから見た時分からない。大きく耳カットをした時、野良猫の場合継続して治療できない。多くの場合は感染せずに済むが、夏場など感染して辛い思いをしたらどうするのかという意見が出た時に、耳カットを獣医師会として強制することはできない。

動物愛護団体（西原）

獣医師会の助成事業の抽選に当たった方から野良猫の捕獲依頼が結構来ている。獣医師会の事業はとて面白い事業なので、今後個人への助成も取り入れた形で広げていければいいのではないか。

市民（原田）

以前抽選を申し込んだことがあるが、獣医師会のキャンペーンは動物病院で知ったが、広告はしているのか。

獣医師会（西間）

動物愛護週間前に新聞広告を掲載しているが、広告料もかかるのでずっとは広告していないから見過ごすこともあるかもしれない。

学識経験者（馬場）

京都市では野良猫への餌やりルールが決められているが、そもそも野良猫に餌をやることは絶対やってはいけないことだと個人的には思う。ただ、高齢の方や生活して寂しい方は猫がかわいいから餌をやってしまうのだろうが、それが結果的に悪い方向に行ってしまう。蛇口を閉める、繁殖を抑えることの妨げにもなるので、餌をやるなら飼ってくださいとなるのではないか。

マイクロチップは野生動物の調査でも使うが読み取りは難しいので、野良猫でも難しいと思う。一方で、宮崎さんが言われるように避妊手術の処置済みのものとそうでないものを区別できるようにすることは大事で、何らかの方法で区別はした方がいいと思う。

避妊手術には市から獣医師会に230万円を助成しているが、当選倍率はどれくらいか。

動物愛護センター

当選倍率は毎年4倍くらいになる。

座長

耳カットは猫にとって痛くないのか。

動物愛護センター

動物愛護センターでは地域猫の雌猫に避妊手術をした後に左耳をカットしている。右耳カットはオス、左耳カットはメス。あまり切らないと治ったときに分からなくなるので、1cm90度位切る。切るのはまだ麻酔が覚めない止血状態ではさみで切る。切ったときは痛くないが、麻酔が覚めたらお腹の痛みの方が大きいかもしれないが、多少は痛いと思う。すぐ分かるので、耳カットは野良猫に対してやったほうがいいと思う。

獣医師会（西間）

避妊手術をしているかどうかは、毛を刈った時点で手術の跡があるので、お腹を開ける前に気付くと思うが。

動物愛護団体（宮崎）

以前、餌をやっている人が出産を何度もしている猫がいるということで、捕獲して動物病院に避妊手術のため連れて行ったら、毛刈りした後に手術の傷がありもう手術をしているということで手術をしなかった。しかたなく、連れて帰って室内で保護したが、どんどんお腹が大きくなって妊娠していたが、そのまま体調が悪くなって死んでしまい猫に悪い事をしてしまった。古い傷だと先生も分からないこともあると思うし、怪我で傷ができる場合もあるので、手術をしたものについては確実に印をしてほしい。

市民（松永）

耳カットされているのは手術済みの地域猫なのか。また、地域猫がいなくなった場合は探したりするのか。

動物愛護団体（宮崎）

耳カットしている猫には個人で避妊手術をした単なる野良猫と地域猫の両方がある。たまに怪我でなることもある。地域猫がいなくなった場合は、追跡調査をしている方も以前はいたが、ほとんどそこまで管理できない。

座長

地域猫にすると3～5年と言われる野良猫の寿命は延びるのか。

動物愛護センター

避妊する事で、多少は寿命が延びると思うが、屋外なのでいろんな病気、寒さ、外敵等あるので何とも言えない。

学識経験者（横山）

センターにこれ以上動物が増えたら、センターの人員的にも厳しいのか。

また、予算の確保が厳しいと聞いているが、市議会や市長がお金を出してくれないなら他自治体がしているようなふるさと納税などで寄附を集めることはできないのか。或いは市長が共生社会を宣言しているが、予算の後押しはないのか。

動物愛護センター

動物の収容能力はまだあるが、動物が増えてくれば過密状態になり感染のリスクが増え、致死処分する数も必ず増える。また、職員がそれだけ動物をケアしないといけないので、いろんな意味で大変になる、

他自治体のふるさと納税の項目に動物愛護があるところもあるが、仮に北九州市に寄付金制度ができ寄付があったとしても、そのお金がまるまる予算に上乗せされて動物愛護のために使えるものではないので、現場ではそんなにうれしいものではない。

獣医師会（西間）

先日の動物愛護フェスティバルで、市長が致死処分数は1,000数頭から去年は29頭に減ったと言われていたが、それだけ頭数が減ればその焼却にかかる費用がかからなくなると思うが、その分を動物愛護の方に回す事はできないのか。

動物愛護センター

動物愛護センターでは以前年間1万頭の処分をしていたので、2台焼却炉があり、交互に動かしているが、何のために使っているかというと、致死処分した犬猫の他に保管中死亡の犬猫、飼っていたペットが亡くなったということで有料焼却が1500体くる。致死処分頭数が減ったとはいえ、焼却炉は常に動かしているので大幅に費用は減らない。

獣医師会（西間）

以前は税金でやっていたものが、いまはお金を徴収して焼却しているのであれば、費用は捻出できるのではないか。

動物愛護センター

有料焼却は6kg未満が2,000円、6kg以上を3,000円でやっているが赤字である。平成5年にセンターができてから24年が経ち、老朽化でいろんなものが壊れてきているので、赤字になっている。

動物愛護団体（宮崎）

市長が致死処分ゼロを宣言されたそのしわ寄せがどこにくるかということ、以前西原会員も言っていたが、動物愛護センターに動物を持って行って処分してもらえないから、公園や病院の裏に置いていく事例がすごく増えている。そのへんも市長にも考えていただきたい。

～閉会～

座長

長時間に渡り熱心な発言をしていただき感謝する。今回もとても有意義な議論ができたのではないかなと思う。

事務局

長時間に渡る意見交換をしていただき、誠に感謝している。

特に最後の方になるといろんな意見がでてきて、市長に考えてほしいという意見もいただいたが、まさにこの懇話会も市長から何が課題なのかということと言われて、この懇話会を開いて、皆さんからの意見をいただいているところである。お金の事を言われると非常に苦しいが、お金のない中でやらなければならない事をどういう形でやればいいのか、ベストは難しくベターなものを探している途中で、この懇話会の中で皆さんから意見をいただいて頑張っていきたいと思う。本日いただいた意見については、持ち帰らせていただき、今後の事業の参考にさせていただく。次回第3回の懇話会は、テーマを災害時のペット対策にしたいと考えている。年度内にもう1回開催を予定している。